

延岡工業高で課題研究発表会

延岡工業高校3年生の課題研究発表会が2日、同校体育館であった。1, 2年生が聞き入る中、6科の代表グループが発表した。3年間の集大成である課題研究の成果を発表し、ものづくりへの意識を高めようと毎年行っている。各科内でグループに分かれて研究。今回は、そのうちの代表グループが発表した。生徒自らが課題を設定し、これまで学んできた知識や技術を応用しながら研究を進めてきた。

このうち、情報技術科の小田龍希君、菊池正平君、松葉竜巳君のグループは、視覚障害者が使う白杖（はくじょう）を改良。障害物が近づくと、警告音で知らせるようにした。

杖（つえ）の中に電池を収納するなどの工夫。赤外線センサーを組み込み、障害物との距離が近づくとつれ警告音が早くなるなどのアイデアも光った。一方で、防水対策などの改善点もあるという。

3人は「最初は作れるか不安だったが、出来上がって良かった。ものづくりの楽しさと大切さを改めて感じた」と振り返った。

機械科は「回転式刃物研ぎ機の制作」、電気電子科は「レゴブロックによるロボット制御」、土木科は「安全マップ製作」、環境化学科は「ホタルの群灯工都を照らすプロジェクト～工業高校化学の挑戦」、生活工学科は「福祉住環境コーディネーター検定への取り組み」と「被服製作技術検定への取り組みと応用」のテーマで発表した。

タ刊ディリー 11' 2.4 より掲載



製作した白杖を使って実演する情報技術科の生徒